

**笠野 眞喜議員**



## Q 復興公営住宅の建設計画は

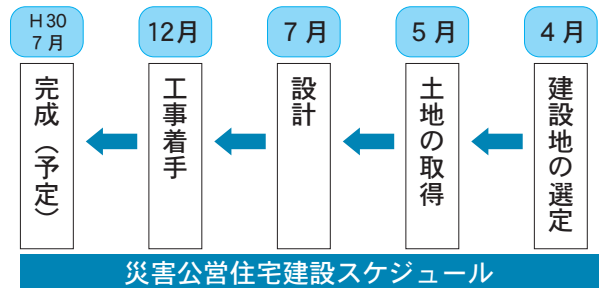
A 12月には建設着手

園整備も考慮したらどうか。  
みなし仮設・仮設団地から何とか早く出られるようスピード感を持って復興公営住宅の建設に当たってもらいたい。

**村長**

住まい対策を被災者生活再建の最重要課題と捉えている。災害公営住宅の建設戸数を50戸と推測し予算化しているが、適宜見直しを行う。建設場所もアンケート結果や生活の利便性を考慮し、選定を進めたい。

今回の予算で自宅の再建が困難な被災者向けの復興公営住宅の設計に7500万円、土地取得費に2990万円計上してあるが、いつ頃に何処に何棟建設されるのか。  
また、住宅の建設計画の中で高齢者向け、若者向け、二世帯向け、農家向けなど考えてはどうか、団地風なら公



## Q ライフラインの復旧・復興計画は復興むらづくり計画により進める

A

**笠野議員**

国道57号・国道325号・村道栃木立野線は現在、熊本河川国道

事務所・立野ダム工事事務所で工事がされているが、いつ頃開通するのか。村道、県道を復旧復興する時に、避難道路の計画もご一考お願いしたい。

この夏栃木立野線の開通が予定されているが、栃木から喜多区間の交通量の増加が見込まれるが対策は考えておられるか。

避難道路の整備については復興むらづくり計画により進めたい。水道復旧は、立野地区の応急給水に向けた取り組みを進めている。上水道・簡易水道の補助金査定を受けたので本復旧に取り組んでいく。

水道施設では立野地区をはじめ断水区間が11カ月たった今でもあるが、どのように考えているか。

また、JRの復旧見込みは。

JRの復旧は立野地区の治山事業が平成30年頃終わるのでそれからの復旧になる。

**村長** 村民の生活を支える道路や上下水道のライフラインの復旧は緊急の課題である。

村道は発災から3年で復旧する事を目指す。県・国の事業については、村として一刻も早く開通するよう全面協力していく。

栃木地区は今後の課題として検討したい。火の鳥温泉付近、村道の避難道路は、村と県で連携しながら検討する。



開通に向け作業が進む長陽大橋



復旧が望まれるJR